

「第11回東大院生によるミニレクチャプログラム」

「日本語学概論」  
ことばのゆれ

ら抜きことば

2018年11月8日

田中弥生

総合文化研究科 言語情報科学専攻  
博士課程

# 科目「日本語学概論」の目的

対象：アジア留学を予定・経験し  
日本でも留学生交流のある  
学部生

科目の目的：母語である日本語を  
「外」から見て  
非母語話者に  
説明できるようにする

# 本授業の目的・目標

目的：「ら抜きことば」を理解する

目標：「ら抜きことば」を  
日本語文法から説明できる

ら抜き言葉はどれでしょう

- ①切れる    ②見れる    ③食べれる

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

ら抜き言葉はこれ

①切れる

②見れる

③食べれる

# ら抜き言葉はこれ

①切れる

②見れる

③食べれる

## 「ら抜きことば」とは？ (広辞苑 第7版)

上一段・下一段・カ変活用の動詞に  
可能の意の助動詞「られる」が付いたものから  
「ら」が脱落した動詞

言葉の乱れだ！

正しくない！

言葉は変化するものだ

「ら抜きことば」を  
日本語文法から説明

1. 動詞の種類
2. 歴史的観点
3. 方言との関わり

# 1. 動詞の種類



# 動詞の種類

①切れる

②見れる

③食べれる

基本形 切る

見る

# 活用（語形の変化）

「ら抜きことば」とは？（広辞苑 第7版）

上一段・下一段・カ変活用の動詞に

可能の意の助動詞「られる」が付いたものから  
「ら」が脱落した動詞

# 語幹

## 子音動詞

切る

語幹

切	ら	ない
切	り	ます
切	る	
切	る	とき
切	れば	
切	れる	
切	る	う

## 母音動詞

見る

見	ない	
見	ます	
見	る	
見	る	とき
見	れば	
見	よ	／みろ
見	よ	う

## 「ら抜きことば」とは？ (広辞苑 第7版)

上一段・下一段・カ変活用の動詞に

**可能**の意の助動詞「られる」が付いたものから

「ら」が脱落した動詞

# 可能表現の違い

子音動詞

切る

母音動詞

見る

規範

ら抜き

可能 切れる

見られる

見れる

# 可能・受身・尊敬の表現

子音動詞

切る

母音動詞

見る

規範

ら抜き

見れる

可能  
受身  
尊敬

切れる

切られる

切られる

見られる

見られる

見られる

# 可能・受身・尊敬の表現

子音動詞

切る

kir

eru

語幹

areru

母音動詞

見る

mi

語幹

rareru

規範

読める yom+eru

書ける kak+eru

食べられる tabe+rareru

起きられる oki+rareru

## 2. 歷史的觀點



# 可能・受身・尊敬 範

# 現在の規

	子音動詞	母音動詞
可能	語幹 + eru	語幹 + rareru
受身	語幹 + areru	
尊敬		

切れる **kir+eru**

読める **yom+eru**

書ける **kak+eru**

見られる **mi+rareru**

食べられる **tabe+rareru**

起きられる **oki+rareru**

# 可能・受身・尊敬 況

# 現在の状

	子音動詞	母音動詞
可能	語幹 + eru	<b>語幹 + reru</b>
受身	語幹 + areru	語幹 + rareru
尊敬		

ら抜き

切れる **kir+eru**  
読める **yom+eru**  
書ける **kak+eru**

見~~ら~~れる **mi+~~r~~areru**  
食べ~~ら~~れる **tabe+~~r~~areru**  
起き~~ら~~れる **oki+~~r~~areru**

# 明治の小説

明治38年 寺田寅彦  
『竜舌蘭』

姉上に、少し心持ちが悪いからと、  
言いにくかったのをやっと言って  
早く床を取ってもらって寝た。萌黄  
地に肉色で大きく鶴の丸を染め抜い  
た更紗蒲団が今も心に残っている。  
頭がさえて眠られそうもない。

明治38年

寺田寅彦『竜舌蘭』

眠られそうもない

眠る 子音動詞

nemuranai

nemurimasu

nemuru

nemurutoki

nemureba

nemure

nemurou

眠られる

nemur+areru

可能表現

切れる kir+eru

眠れる nemur+eru

眠れそうもない

# 時代の流れと表現の変化

眠られる

**nemur+areru**

明治時代

	子音動詞
可能	語幹 + areru
受身	
尊敬	

明治時代  
子音動詞の  
可能表現も  
語幹 + **areru**

# 子音動詞の変化

明治時代

子音動詞

可能

受身

尊敬

語幹 + areru

現在の規範

子音動詞

可能

受身

尊敬

語幹 + eru

語幹 + areru

眠られる

nemur+areru

子音動詞の  
可能表現

ar抜き

眠れる

nemur+eru

# 現在起こっている現象

明治時代

	子音動詞	母音動詞
可能	語幹 + areru	語幹 + rareru
受身		
尊敬		

現在の規範

	子音動詞	母音動詞
可能	語幹 + eru	語幹 + reru
受身	語幹 + areru	語幹 + rareru
尊敬		

ら抜き

母音動詞の  
可能表現で  
語幹 + rareru

見られる mi+rareru  
食べられる tabe+rareru  
起きられる oki+rareru

# 今後の予想

明治時代

	子音動詞	母音動詞
可能		
受身	語幹 + areru	語幹 + rareru
尊敬		

現在の規範

	子音動詞	母音動詞
可能	語幹 + eru	語幹 + reru
受身		語幹 + rareru
尊敬	語幹 + areru	

予想

	子音動詞	母音動詞
可能	語幹 + eru	語幹 + reru
受身		語幹 + rareru
尊敬	語幹 + areru	語幹 + rareru

明治  
↓  
現在  
子音動詞の可能  
ar抜き

現在  
↓  
将来  
母音動詞の可能  
ra抜き



# なぜ変化するのか

- 文法体系の単純化
- 曖昧性の軽減

予想

	子音動詞	母音動詞
可能	語幹 + eru	語幹 + reru
受身	語幹 + areru	語幹 + rareru
尊敬		

# まとめ

目標：「ら抜きことば」を  
日本語文法から説明できる

1. 動詞の種類

2. 歴史的観点

明治から現在：子音動詞「**ar**ぬき」

現在から将来：母音動詞「**ra**ぬき」

理由

- 文法体系の単純化
- 曖昧性の軽減

# 参考文献

伊坂淳一(2016)『新ここからはじまる日本語学』ひつじ書房

庵 功雄(2012)『新しい日本語学入門 ことばのしくみを考える(第2版)』  
スリーエーネットワーク

井上史雄(1998)『日本語ウォッチング』岩波新書

小池清治(2001)『現代日本語探求法』朝倉書店

定延利之(2012)『私たちの日本語』朝倉書店

畠山雄二編著(2009)『日本語の教科書』ベレ出版

原沢伊都夫(2012)『日本人のための日本語文法入門』講談社現代新書